

ナウマン通信



2021年
9月30日発行
第20号

大阪市立我孫子南中学校

たかが中学生、されど中学生

緊急事態宣言中の実施という緊張感の中、体育大会を本日無事に実施することができました。残念ながら保護者の参加ができずに無観客となりましたが、子どもたちは自身のやるべきことに全力で取り組んでいました。



力強い選手宣誓で始まった体育大会は一人一人が競技、演技・応援、そして係の仕事と一つ一つに全力で取り組んでいました。全般を通じて感動したのは誰もが手を抜いていないこと、そしてその頑張っている人にクラスや学年を超えて応援していることでした。中にはきっと走るのが苦手な人もたくさんいたことでしょう、出たくない種目に自分を犠牲にして出場した人もいるかと思います。そんな人の気持ちをどうか大事にしてください。

開会式の時に次のような話をしました。「1年生は初めての体育大会、遠慮せずに自分の持てる力を発揮し、先輩たちの動きをしっかりと見てほしい。2年生は4月から本当によく頑張ってきました。いよいよ一つ一つの行事が終わるたびに我孫子南中学校の中心になっていきます。しっかりとバトンを受け継ぎ、さらに成長するきっかけにして欲しい。3年生はコロナの影響を最も受けた学年。何かと不安や悔しさがあったことだと思いますが、ここまで本当によく耐えて頑張ってきました。そして最後の体育大会。これからも何かをするたびに“最後の”という言葉が付いて回ることだと思います。しかし、校長先生は最後だから頑張れというつもりはありません。〇〇だから頑張るという風に**理由がないと頑張れない人にはなあってほしくないのです。今やらなくてはならないことだから頑張る**。そういう人になって欲しいと願っています。どうか今日の体育大会もそういう気持ちで頑張りましょう」と。

閉会式の時には3年生のソーランについて次のようなお話をしました。

「ソーランの振り付けは中学生であればちょっと頑張れば必ずできるようになります。隊形も練習すれば覚えることができます。でも踊ることができて形が整ったとしても人は感動しません。では、今日の3年生のソーランに感動したのはなぜか？それは君たちの顔つき、目つきといった**表情を見て感動**したのです。やり切ってやろう。気持ちを伝えようという本気の思いが顔に、体に現れたときに見ている人たちは感動をするのです。正にそんなソーランを3年生は演じてくれました。そして、そんな君たちを見て今年も校長先生はこんなことを思いました。君たちは『**たかが中学生、されど中学生**』だということです。世の中から見れば何の力もない小さな存在、何をするにも親の力を必要とするたかが中学生です。しかし、校長先生から見ると君たちはされど中学生です。

一人一人の力はちっぽけだけど、一人一人が心を合わせ、本気になって取り組めば人の心を変えることができる。感動させることができる。そんな立派な中学生だと思っています。その通りにあびなんの君たちはやっぱりやってくれた。やっぱり君たちはすごい。感動をたくさん与えてくれました。本当にありがとう！」さあ、明日から次のステージを目指し、新しいスタートを切っていこう。

